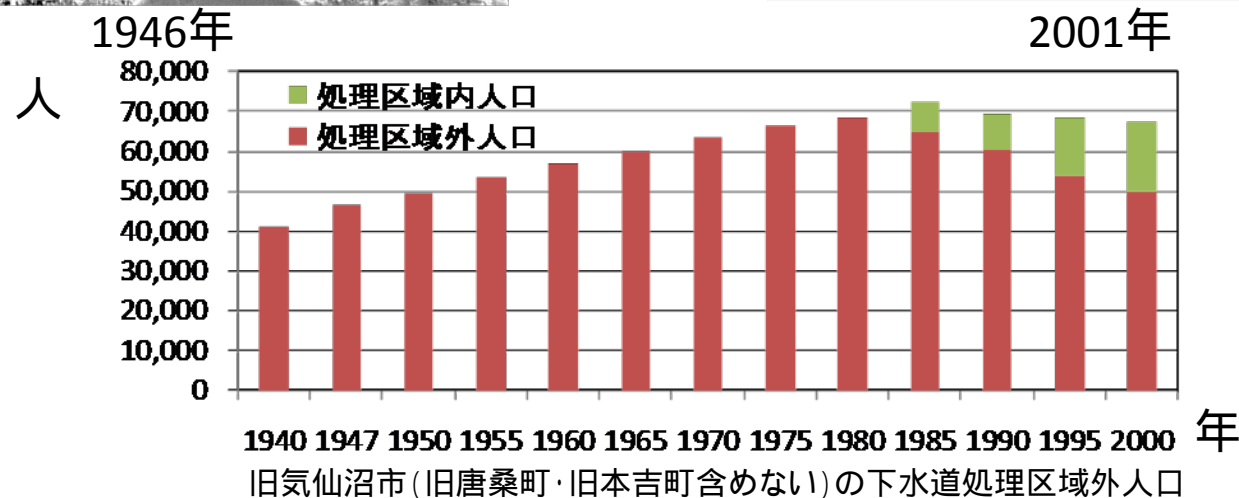
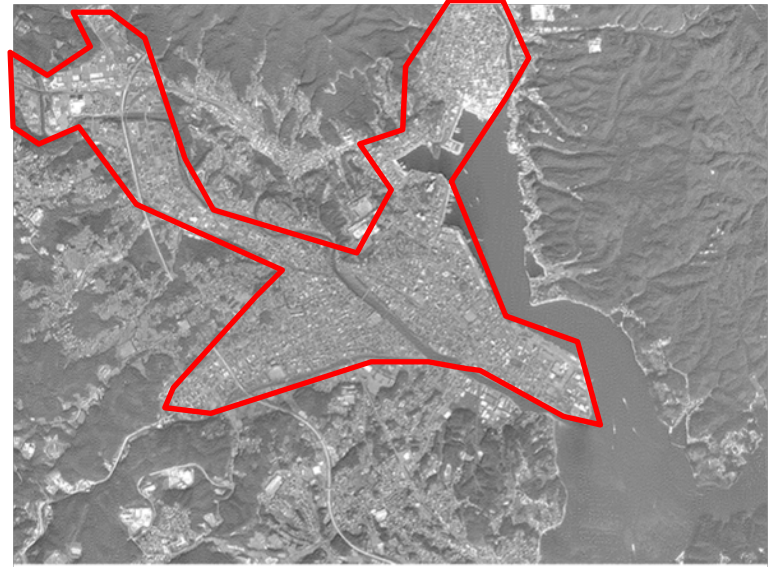


湾奥部の都市化

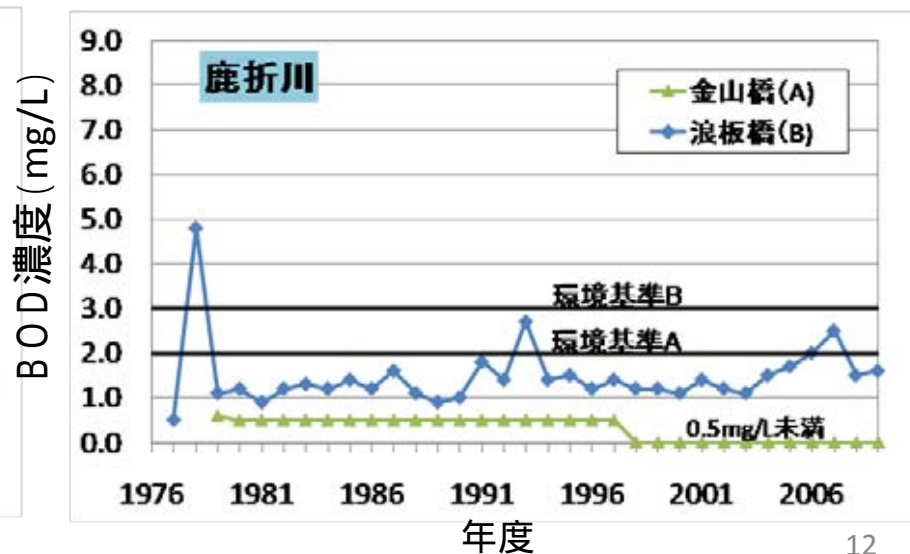
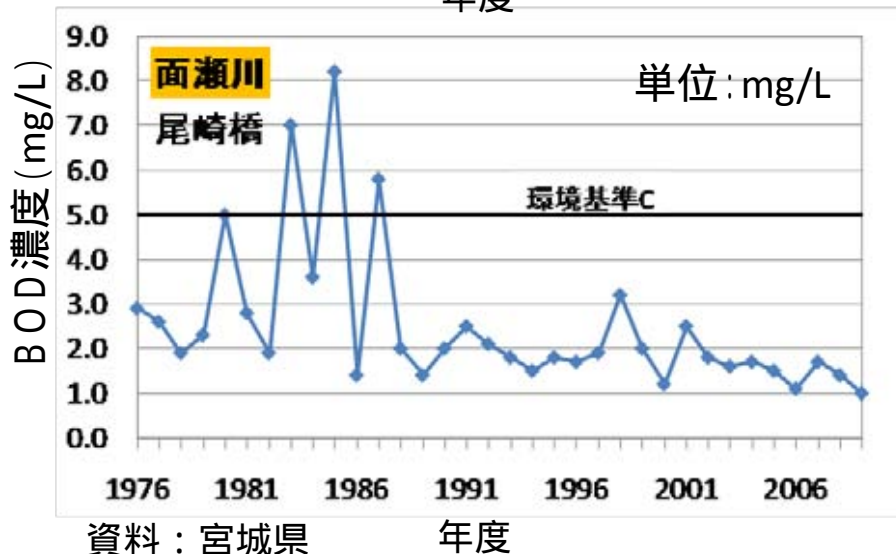
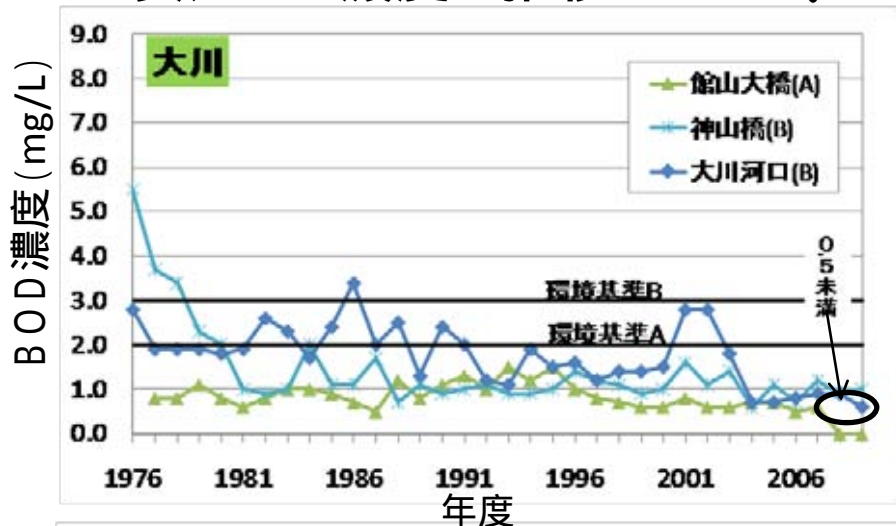
- 1940年以降、気仙沼湾の湾奥周辺では都市化が進み、人口が増加した。
- 旧気仙沼市の下水道処理区域外の人口は1980年代以降低下し、1950年代と同程度になっている。



(3) 流入河川の水質

流域からの有機物の流入(BOD)

- 1970年代から1980年に高い濃度がみられたが、1980年代以降は低下し、安定した濃度で推移している。



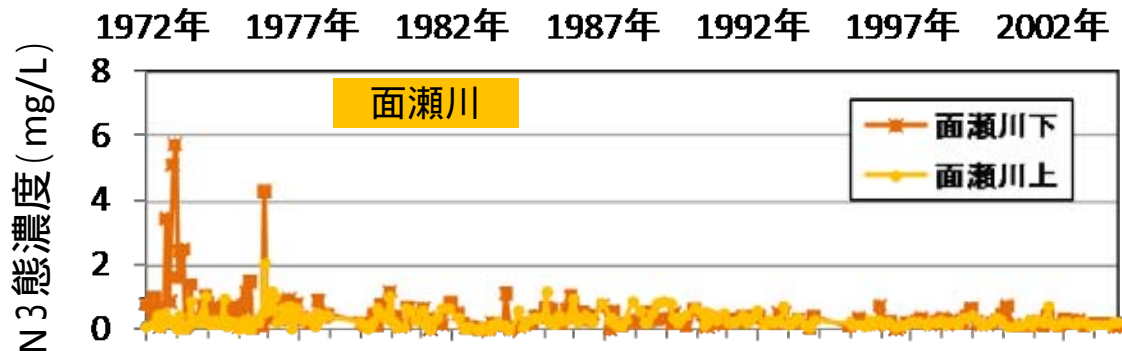
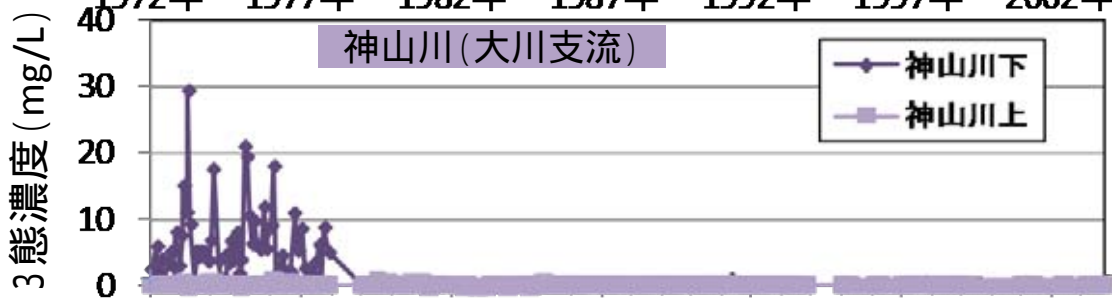
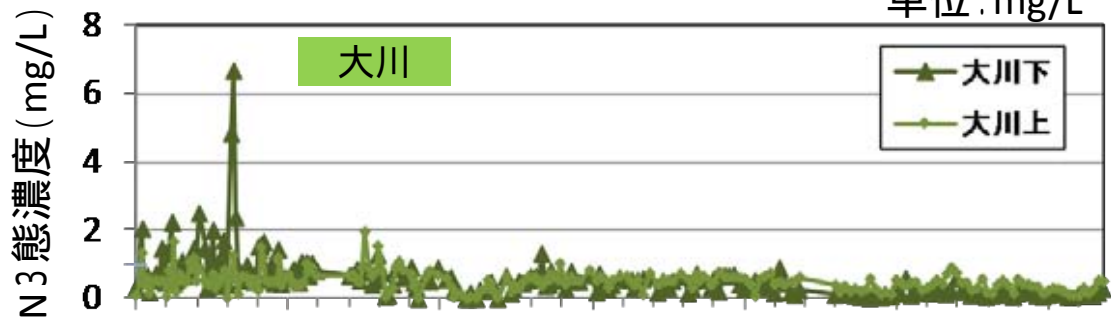
資料: 宮城県
月1回調査

流域からの栄養塩類の流入(窒素): N3態

- N3態については、どの河川も、1970年代に高い値を示し、その後低下、1970年代のような高い濃度は1980年以降みられなくなった。

T-Nの連続観測は1999年以降になるため、それ以前から連続観測されている窒素3態のデータを使用

単位: mg/L



1972年 1977年 1982年 1987年 1992年 1997年 2002年
年

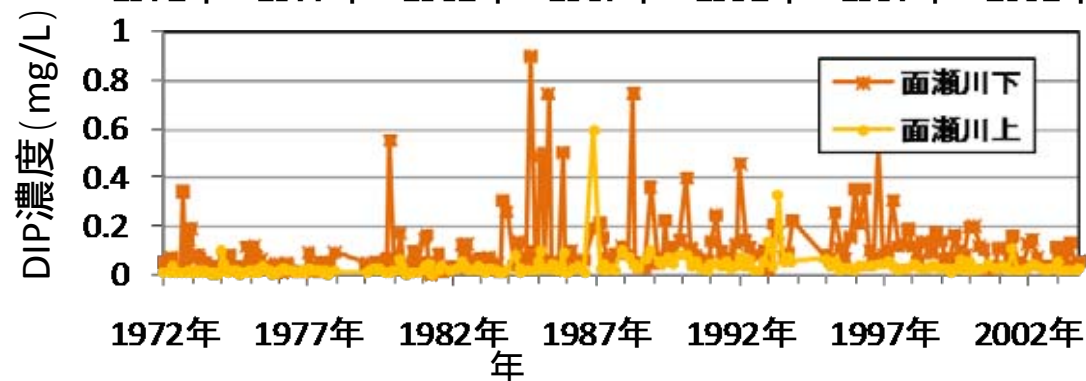
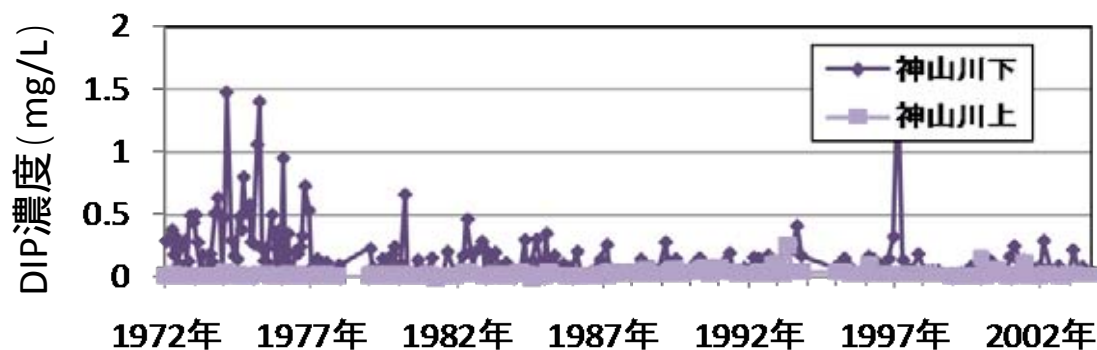
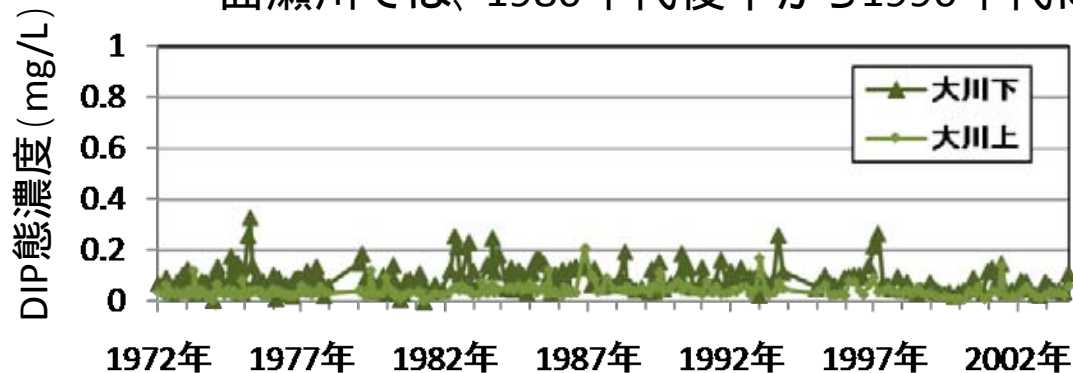


1991年3月まで: 原則月1回調査
1991年4月以降: 偶数月1回調査

資料: 気仙沼水産試験場

流域からの栄養塩類の流入(リン):DIP

- 大川については大きな変化はみられない。
- 神山川下については1970年代後半に高い値であった。
- 面瀬川では、1980年代後半から1990年代にかけて高い値がみられた。



1991年3月まで:原則月1回調査
1991年4月以降:偶数月1回調査